

★今月のテーマは「**伝染する病気に気をつけよう**」です。

まずは「感染」と「伝染」の違いを知ろう！

細菌・ウイルス・寄生虫などの病原体が体内に入ることを「**感染**」といいます。そしてそれらを病原体によって病気が起きると「**感染症**」。その感染症がうつることが「**伝染**」です。

★2月に注意してほしい感染症

No1:インフルエンザ No2:溶連菌感染症 No3:ノロウイルス感染症 No4:ロタウイルス感染症

インフルエンザ

インフルエンザでは、咳や喉の痛みなど呼吸器の症状だけでなく、高熱、全身のだるさ（倦怠感）食欲不振などの全身症状が強く、しばしば頭痛や関節痛、筋肉痛などの呼吸器以外の症状を伴います。合併症として、気管支炎、肺炎、中耳炎などがみられます。重大な合併症には急性脳症（インフルエンザ脳症）や重症肺炎などがあります。もし、インフルエンザが疑われる症状に気付いたら、できるだけ早く医療機関で診察を受けましょう。

主に・飛沫感染、
接触感染でうつる。



溶連菌感染症

代表的な症状は、発熱（38～39℃）と喉の痛みです。しかし、3歳未満ではあまり熱が上がらないと言われています。そして、体や手足に小さくて紅い発疹が出たり、舌にイチゴの様なツブツブができたりします。（イチゴ舌）その他に頭痛、腹痛、首すじのリンパ節の腫れもみられます。急性期を過ぎますと、発疹のあとには落屑（皮むけ）が認められるようになります。風邪と違って咳や鼻水が出ないというのもこの病気の特徴です。この病気には潜伏期間があり、実際に感染してからだいたい2～5日で症状がでます。

主に・飛沫感染が多い。



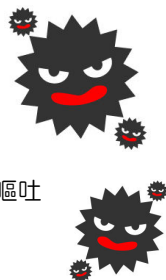
ロタウイルス感染症

潜伏期間は1～3日で、主な症状としては激しい嘔吐や下痢、39℃以上の発熱です。便の色が白色になることがあり、大量の水様性の下痢がでることから脱水に陥りやすく、注意が必要です。発症後、通常であれば2～7日程度で症状は治まりますが、まれにけいれんや脳症を合併することがあるので注意が必要です。

主に・経口感染、接触感染。

こんな症状に要注意！

- ・潜伏期間は1～3日
- ・3～8日続く水様性の下痢の嘔吐
- ・便の色が白い
- ・39℃以上の発熱や腹痛



ノロウイルス感染症

胃をひっくり返すような嘔吐、もしくは吐き気が突然、強烈に起きるのが特徴です。発熱は約37～38℃の軽度で、大人では吐き気や腹部膨満感といった症状が強いようです。発症後、通常であれば1～2日程度で症状は治まります。下痢は水様性で、重症例では1日に十数回もみられますが、通常は2～3回で収まります。

主に・接触感染、飛沫感染、空気感染。

こんな症状に要注意！

- ・潜伏期間は12～48時間
- ・突発性の嘔吐、吐き気、腹痛から水様性の下痢

